

子ども・子育て支援対策調査 特別委員会報告資料

令和5年7月4日

報告事項件名

頁

- 1 令和4年度「あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト（ASMAP）」の
実績及び令和5年度の主な取り組み方針について・・・・・・・・・・ 2

(衛 生 部)

子ども・子育て支援対策調査特別委員会報告資料

令和5年7月4日

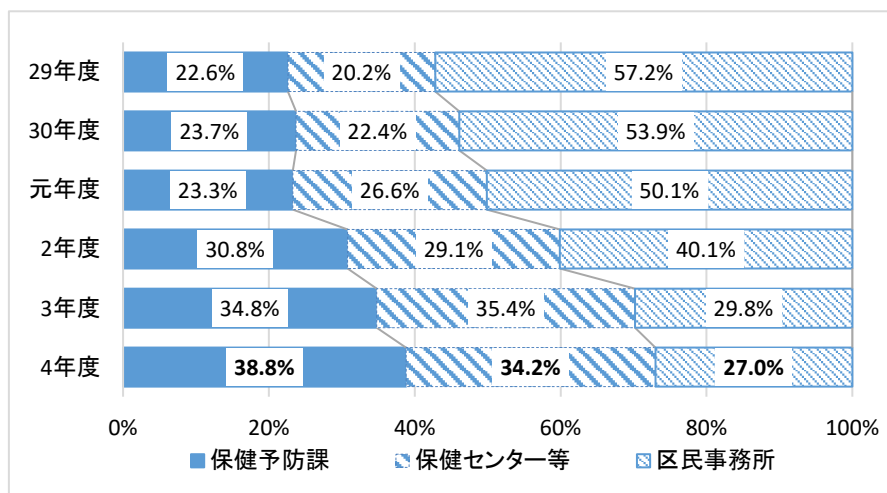
件名	令和4年度「あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト（ASMAP）」の実績及び令和5年度の主な取り組み方針について
所管部課名	衛生部保健予防課
内容	<p>「あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト」（以下、「ASMAP」）の令和4年度実績及び令和5年度の主な取り組み方針について下記のとおり報告する（詳細はP8～12参照）。</p> <p>1 ASMAPの概要（詳細はP8参照）</p> <p>（1）事業開始の経緯</p> <p>ア 平成26年「子どもの貧困対策に関する法律」が施行 イ 平成27年「足立区子どもの貧困対策実施計画」を策定 ウ 主要事業の1つである「妊産婦支援の充実」のため、平成27年度から、妊娠届に経済的な不安の有無や健康保険の加入状況、援助者の有無など、東京医科歯科大学と共同で開発した区独自の質問票を導入し、支援を要する世帯を把握。 エ 特に支援を要する世帯に対し、妊娠期から切れ目のない支援を行うため平成28年度から母子保健コーディネーター（保健師）を配置し、現在保健予防課に7名在籍している。</p> <p>（2）事業内容</p> <p>すべての妊産婦に対し、養育困難や生活困窮を未然に防ぐため、相談や経済的支援を通じ、以下のように妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施している。</p> <p>ア 全妊娠届出書の記載内容と区独自の質問票及びスマイルママ面接からリスクアセスメントを行い、支援区分を判定 イ 的確なリスクアセスメントのため、東京医科歯科大学の協力を得て、妊娠届時の質問票の結果により、特に支援を要する妊婦（特定妊婦）を把握し、母子保健コーディネーターが支援を担当 ウ 支援を要する妊婦には、保健師が関係機関と連携して継続的な寄り添い支援を実施 エ 東京都の「とうきょうママパパ応援事業」や国の「出産・子育て応援給付金」を活用し、すべての妊婦・子育て世代に寄り添い、身近で相談に応じる「伴走型支援」とギフトカードを配付する「経済的支援」を一体的に実施</p>

2 妊娠届出及び質問票について

(1) 妊娠届出場所の年次推移 (図1)

保健予防課や保健センター等では、妊娠届出時に保健師等とスマイルママ面接を実施することができ、こども商品券もその場で受け取ることができる。保健予防課と保健センターに来ていただけるよう案内している。その結果、保健予防課と保健センターの届出割合が、令和3年度の70.2%から令和4年度の73.0%に2.8ポイント増加している。

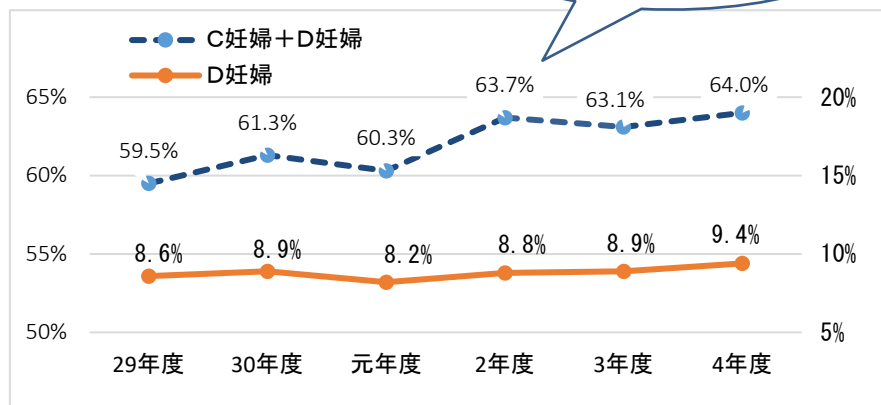
図1 妊娠届出場所の年次推移



(2) 支援が必要な妊婦の年次推移 (図2)

何らかの支援を必要とする人の割合 (C妊婦及びD妊婦) は、令和3年度の63.1%から、令和4年度の64.0%に0.9ポイント微増している。(判定基準はP9参照)

図2 支援が必要な妊婦の年次推移



(3) 支援レベルに応じた対応

身体的・心理的な支援を要するC妊婦には、妊娠期から産後

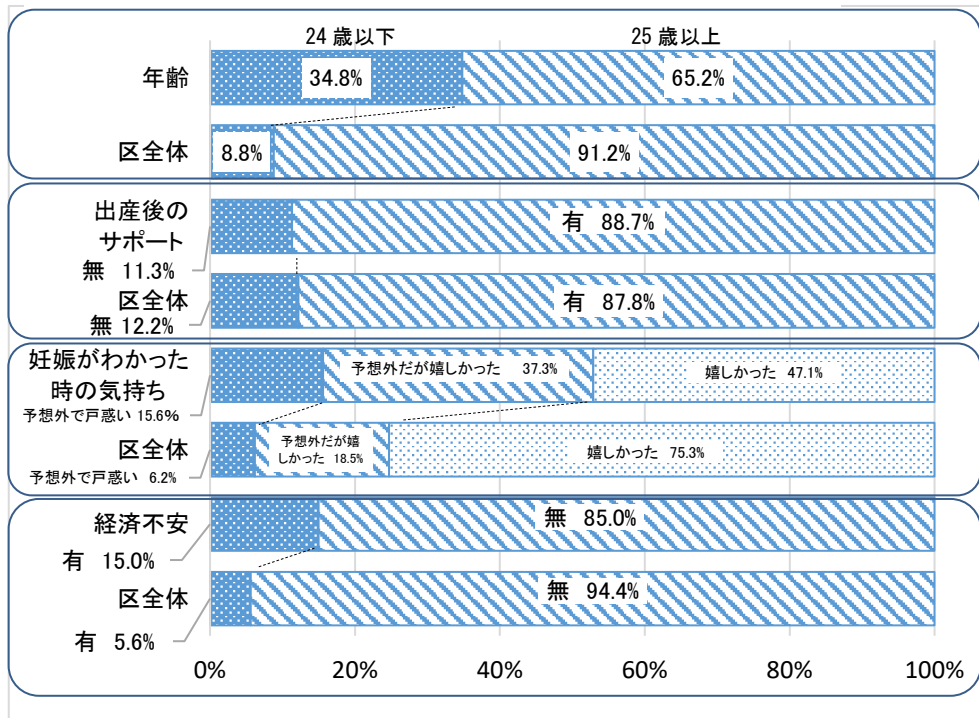
に3回以上の電話や家庭訪問等を実施。さらに、特に支援を要するD妊婦には4回以上の家庭訪問を実施している。（詳細はP9参照）

(4) 妊娠届出時の質問票や面接で把握する24項目のうち該当が多いリスク項目

ア 届出時シングル【妊娠届出書提出の際、入籍していない妊婦（入籍予定の方も含む）】（12.6%）（図3）

妊娠がわかった時に「予想外で戸惑いがあった」割合は、妊婦全体の割合よりも9.4ポイント高かった。また、経済状況に不安がある妊婦の割合も9.4ポイント高い。

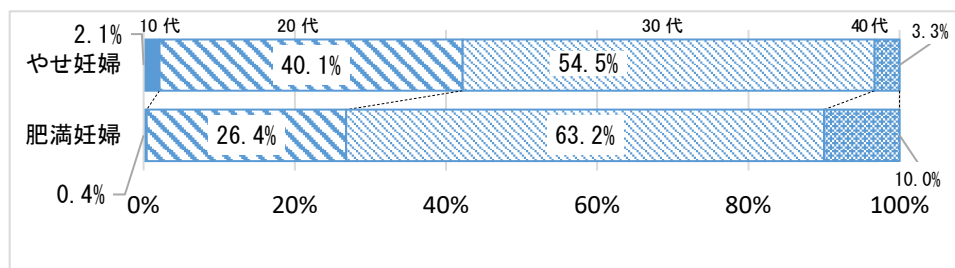
図3 届出時シングルと回答した者(549人)の内訳(割合)



イ やせ（12.4%）・肥満（13.0%）（図4）

若い年代の妊婦は、やせている傾向がある。

図4 やせ(539人)・肥満(567人)と回答した者の年代別内訳(割合)



3 令和4年度事業実績

(1) スマイルママ面接

保健師等による妊婦全数面接により、妊婦の心身状態・家庭状況等を把握し、適切なケアを行う。面接をした方には、育児パッケージとして「こども商品券」10,000円分を配付する。

ア 面接者数（こども商品券配付数） 4,150人

※ 令和4年度届出者（転入含む） 4,678人に対する
令和5年3月31日までの対応分

※ 未面接者528人については、区民事務所に届出た方などで、いずれも後日予約して面接を行っていく。

(2) ファーストバースデーサポート（令和5年5月31日現在）

成長の節目の年齢となる1歳時にアンケートを郵送して育児状況を把握し、適切なケアにつなげる。アンケートを返送した方には、育児パッケージとして「こども商品券」を配付する。

【アンケートの回答状況】

※ 発送は1歳になるお子さんを毎月抽出

ア 発送数 4,363人

イ 回答数 3,980人

ウ 有効回答 3,976人

エ 未回答 383人

オ 回答率 91.2%（令和3年度 91.1%）

【こども商品券配付状況】 3,976人

ア 第1子（10,000円分） 1,973人

イ 第2子（20,000円分） 1,418人

ウ 第3子以降（30,000円分） 585人

(3) 多胎児家庭移動支援（令和5年3月31日現在）

多胎児が0歳・1歳・2歳時に、保健師等が保護者と面接を実施し、育児状況を把握する。面接終了者については、母子保健事業利用時の移動の支援として、タクシー利用時に使用できる「こども商品券」24,000円分（一世帯あたり）を配付する。

ア 面接者数（こども商品券配付数） 117人

0歳 39人

1歳 41人

2歳 37人

(4) 宿泊型産後ケア

産後に家族等から十分な支援が受けられず、育児に不安のある方などを対象に、宿泊型で心身のケアや育児サポートを実施している。妊娠8か月以降から申請を受け付けている。産後4か月未満、6泊7日までを上限に1日5,000円の自己負担で利用できる。

※ 令和4年度は区外施設5か所、令和5年度から区内施設1か所（横川レディースクリニック）を追加

ア 施設一覧

	施設名称	住所	宿泊	日帰り
1	綾瀬産後ケア	葛飾区小菅 4-8-10	○	○ (新規)
2	スワンレディースクリニック	北区王子 4-27-7	○	×
3	東京かつしか赤十字母子医療センター	葛飾区新宿 3-7-1	○	×
4	東京リバーサイド病院	荒川区南千住 8-4-4	○	×
5	東都文京病院	文京区湯島 3-5-7	○	×
6	横川レディースクリニック (新規)	足立区保木間 1-22-15	○	×

イ 申請者数 443人

ウ 利用者数 219人

エ 利用日数 1,193日

オ 利用者アンケート 90名から回答あり。

(アンケートの内容の詳細はP11～12参照)

カ その他意見

【感謝】

- ① 赤ちゃんはかわいいが、24時間頑張り続ける事は無理。宿泊型産後ケアがあったから、どうにか育児ができていていると思う。
- ② 休養も取れ、子育ての相談もできて良かった。毎日わいてくる疑問をゆっくり相談できる宿泊型は、とても良かった。赤ちゃんを預けて一人の時間を作れ、とてもリフレッシュできた。
- ③ 夜間は、赤ちゃんを預かっていただいて、ゆっくり眠れた。食事のバランスも良く、乳房ケアも良かった。助産師さんが、赤ちゃんにとっても優しく接してくださっていたのがとても良かった。
- ④ 本当に辛く、精神的に追い詰められた状況の中、赤ちゃんをプロの助産師さんたちがみてくれて、とても安心でき、休息を取ることができた。自己負担金もありがた

い価格だった。

【要望】

- ① 実施施設をもっと増やして、もっと選べるようにして欲しい。
- ② 産後ケアの利用イメージがつきにくかったので、利用者の体験レポートなどを公開してくれると良い。
- ③ とても良い取り組みだが、その人の状況に合わせ、どんなケアが必要か提案してくれるともっと有効である。

4 今後の方針

- (1) 全妊婦に対する妊娠8か月頃のアンケートを追加し、希望者には面談を実施する等寄り添い支援を継続強化する。
- (2) 国の出産・子育て応援給付金事業を活用し、全妊産婦に対する支援を「スマイルママ面接」「こんにちは赤ちゃん訪問」「ファーストバースデーサポート」等で実施し、ASMAP事業の充実を図っていく。
- (3) 産後ケアについては、区内施設の拡充を優先課題とし、施設の増設に向け、区内医療機関への働き掛けを進めていく。

あだち スマイル ママ&エンジェル プロジェクト

A S M A P

母子保健コーディネーターが妊娠期から切れ目ない支援を実現し、母子ともに健やかに笑顔で暮らせるあだちを目指す

気づく

妊娠届出書の内容等から支援を要する妊婦を把握

気づきのしくみづくり

- 母子保健コーディネーターや地区担当保健師が妊娠届出時の内容や区独自の質問票を確認。さらにスマイルママ面接事業で全妊婦と面談し、支援区分をABCDの4段階で判定。妊娠中の身体管理や産後の育児困難、生活困難が予想される妊婦を把握する。特に支援を要する特定妊婦(D妊婦)は母子保健コーディネーターがサポートを行う。
- 医療機関が身体管理や育児困難、生活困難が予想される妊婦を診察した際に、各保健センター等に情報提供してもらう仕組みを構築。

妊娠中

支える

面接・訪問を実施し、個別の状況に合わせた、支援計画を作成

支援レベルの確認及び支援

- A妊婦:** 妊娠届出内容により状況を確認し、妊娠期の継続支援は必要ない者
- B妊婦:** C妊婦と判定されたが、状況が改善された者
- C妊婦:** 電話及び訪問での状況確認後、身体的・心理的な継続支援が必要な者
→ 支援計画作成
→ 妊娠期と産後に3回以上の電話や家庭訪問を実施
- D妊婦:** 出産前後で継続支援が特に必要な者
→ 支援計画作成
→ 妊娠期と産後に4回以上の家庭訪問を実施

つなぐ

支援計画に基づき、関係機関と連携協力し、早期に適切な対応

連携体制の構築

こども支援センターげんき、福祉事務所、くらしとじごとの相談センター、医療機関、保育施設や子育て支援NPO等の関係機関と連携した早期の対応で、育児困難状態を未然に防ぐ。

【連携事例】

- こども支援センターげんきと支援対象者の情報共有
- 産婦人科に妊婦健診同行受診
- 福祉事務所に生活保護相談の同行
- 子育て支援事業等の紹介
- 保育施設入所手続き説明
- 医療機関とのカンファレンス
- 産後ケア施設からの情報提供等

見守る

保健師等が、母子保健事業の様々な機会に、支援対象者の育児や生活状況を確認、支援・見守りを継続

支援状況の確認

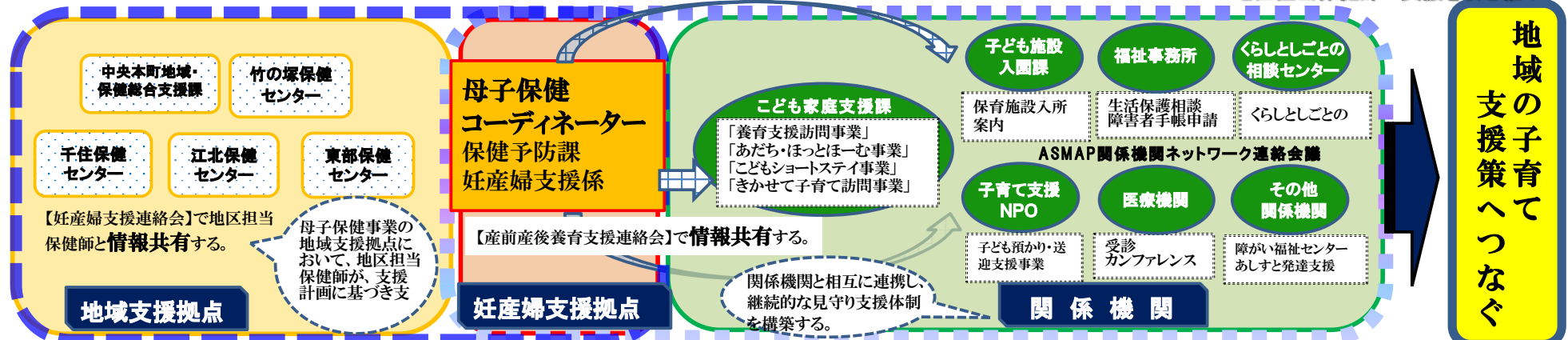
- 保健師等がファミリー学級、こんには赤ちゃん訪問、産後ケア、乳幼児健診、ファーストバースデーサポート(1歳時)、健やか親子相談、多胎児家庭移動支援事業などの機会を捉えて、支援対象妊産婦やその子どもの育児や生活状況を確認し、支援・見守りを継続する。
- 新たに支援が必要な妊産婦や子どもを早期に把握し、関係機関と連携して、支援を実施する。

※ 母子保健コーディネーター、地区担当保健師及び関係機関等が様々な機会に、支援対象者と顔を合わせて声をかけ、必要な時にいつでも支援できるネットワークを構築

出産後

母子保健コーディネーターを中心に支援を実施

地区担当保健師へ支援を引き継ぐ

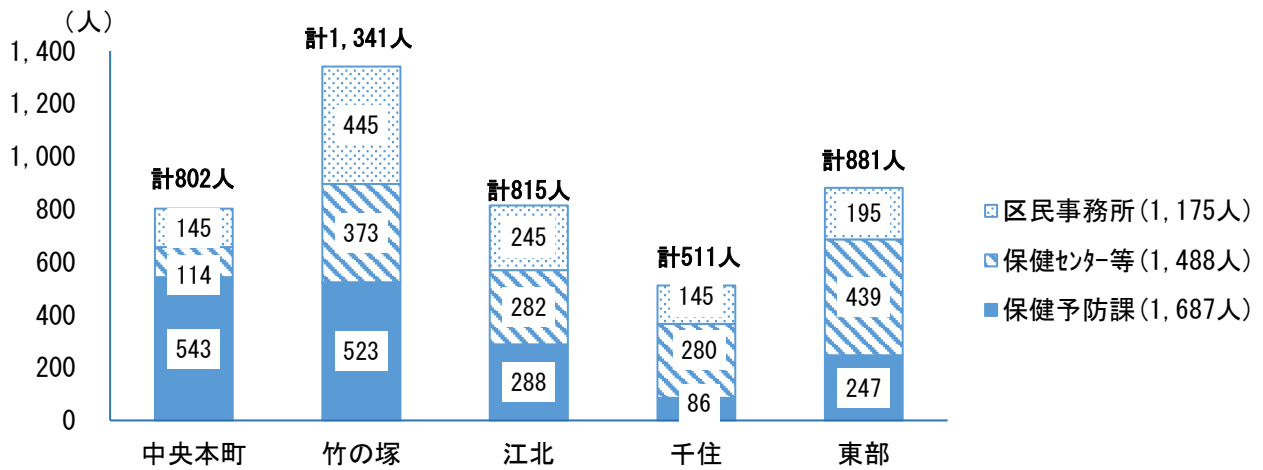


● 令和4年度妊娠届対応実績 <区全体> ●

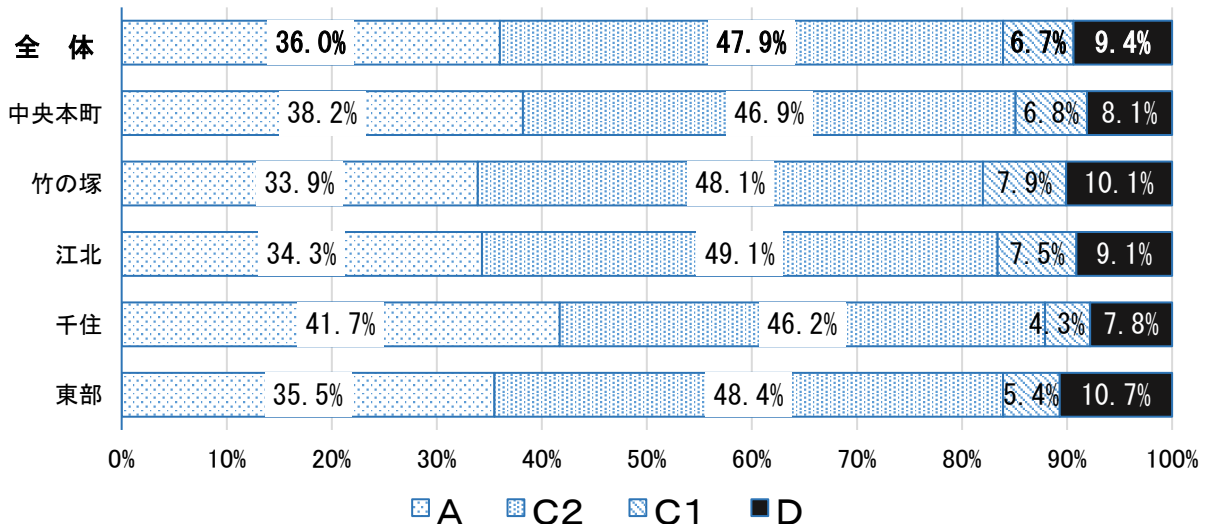
【妊娠届出場所別】総数4,350人

届出場所	届出人数	受付割合(%)	3年度割合(%)
保健予防課	1,687	38.8	34.8
保健センター	1,488	34.2	35.4
区民事務所	1,175	27.0	29.8
計	4,350	100	100

【妊娠届出場所・保健センター等管轄別人数】総数4,350人



【保健センター等管轄別妊婦支援区分】



<支援区分>
 A : リスク項目該当なし 通常の母子保健対象妊婦
 C2 : 主に身体的リスクがあり助産師の保健指導を要する妊婦
 C1 : 特定妊婦ではないが、社会的・心理的リスクがあり保健師の継続支援が必要な妊婦
 D : 出産後の養育について出産前に支援を行うことが必要な特定妊婦
 (*) 区分Bは、その後のフォローにより継続支援が必要なしと判断された区分のため、初回面接時には該当者はいない。

令和4年度 妊娠届 アンケート集計 <区全体>

アンケートリスク項目		中央	竹の塚	江北	千住	東部	計	割合	3年度割合
1	BMI 25以上(肥満)	105	176	112	47	127	567	13.0%	12.8%
2	届出時シングル	103	186	108	44	108	549	12.6%	12.4%
3	BMI 18.5未満(やせ)	102	163	114	60	100	539	12.4%	13.2%
4	出産後のサポートがない	98	161	101	64	106	530	12.2%	13.2%
5	20～24歳	49	124	76	19	75	343	7.9%	7.3%
6	予想外の妊娠での戸惑った・困った	45	89	54	31	50	269	6.2%	6.4%
7	上の子や家族のことで心配あり	48	79	46	35	58	266	6.1%	6.1%
8	前回の妊娠・出産の異常	55	73	50	30	50	258	5.9%	6.5%
9	その他(心身の体調不良等)	48	79	38	31	59	255	5.9%	4.5%
10	経済不安	51	84	42	21	46	244	5.6%	5.5%
11	精神科治療中・既往あり	36	67	35	28	49	215	4.9%	4.3%
12	精神以外要支援の病気	47	63	34	20	36	200	4.6%	5.6%
13	多産(4回以上妊娠)	36	64	40	15	29	184	4.2%	4.1%
14	困った時の助けなし	28	46	25	15	29	143	3.3%	3.2%
15	40歳以上の初妊	25	28	25	15	33	126	2.9%	2.2%
16	支援の必要な外国人	13	50	12	1	18	94	2.2%	1.2%
17	第1子若年出産	9	29	23	1	16	78	1.8%	1.9%
18	本人の喫煙	12	26	10	9	15	72	1.7%	1.3%
19	多胎 双子以上	9	17	12	7	11	56	1.3%	1.1%
20	生保・保険なし	11	17	12	0	15	55	1.3%	1.0%
21	本人の飲酒	9	17	13	4	8	51	1.2%	0.8%
22	若年 20歳未満	4	16	8	4	8	40	0.9%	1.0%
23	妊娠届20週以降	4	8	9	3	8	32	0.7%	0.7%
24	関係機関連絡・DV・虐待	5	6	5	0	9	25	0.6%	0.4%
妊娠届 総数		802	1,341	815	511	881	4,350		4,496

令和4年度宿泊型産後ケアの利用者アンケート結果

宿泊型産後ケア利用者アンケート

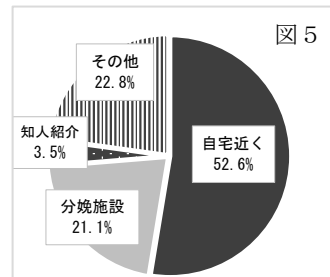
回答数 90名

1 この事業を何で知りましたか（重複ありのため上位のみ）。

- ① 区ホームページ 27.2%
- ② スマイルママ面接 20.8%
- ③ 実施施設からの案内 18.4%

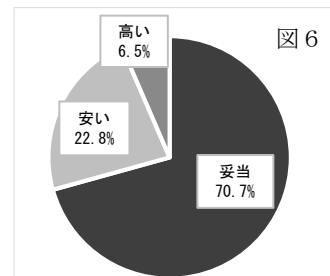
2 今回利用の施設を選んだ理由は何ですか（図5）。

- ① 自宅に近い 52.6%
- ② 分娩施設 21.1%
- ③ 知人等からの紹介 3.5%
- ④ その他 22.8%



3 自己負担金（1日5,000円）は妥当でしたか（図6）。

- ① 妥当 70.7%
- ② 安い 22.8%
- ③ 高い 6.5%

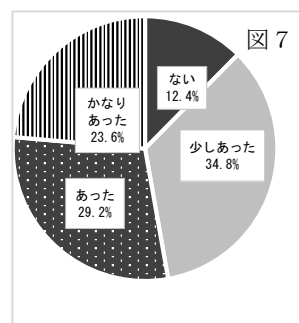


4 どんなことを目的として利用したいと思いましたか（重複ありのため上位のみ）。

- ① 休養 36.8%
- ② 授乳に関する相談 26.0%
- ③ 育児に関する助言・相談 22.1%

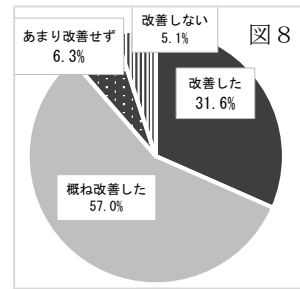
5 出産後、体調不良や育児不安、精神的に不安定になったことはありましたか（図7）。

- ① なかった 12.4%
- ② 少しあった 34.8%
- ③ あった 29.2%
- ④ かなりあった 23.6%



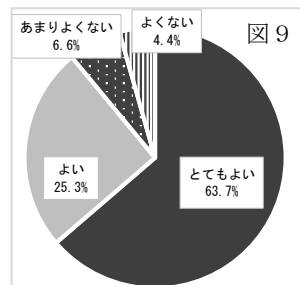
6 産後ケアを利用したことで、不調や不安は改善されましたか (図 8)。

- ① 改善された 31.6%
- ② 概ね改善された 57.0%
- ③ あまり改善されなかった 6.3%
- ④ 改善されなかった 5.1%



7 今回の産後ケア施設の利用は、的に満足のいく内容でしたか(図 9)。

- ① とてもよかった 63.7%
- ② 概ねよかった 25.3%
- ③ あまりよくなかった 6.6%
- ④ よくなかった 4.4%



※ No. 6 と No. 7 の低評価は、実施施設における相談対応への不満によるもの。該当施設には情報提供し、改善を要望した。